

■第2次広陵町人口ビジョン策定の背景

第4次広陵町総合計画後期基本計画及び第1次広陵町まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間が今年度で終了し、次期計画・戦略を策定中であり、この策定内容も踏まえ、近年の人口動向や最新の人口推計等を基に第1次広陵町人口ビジョンを改訂し、第2次広陵町人口ビジョンを策定する。

■将来人口推計方法 (P40)

今回策定する第2次広陵町人口ビジョンは第1次広陵町人口ビジョン時の推計手法と下記パターン2を追加し、合計5つの手法で将来人口を推計した。

パターン1	国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口(平成30年)」に準拠(基準人口は国勢調査)
シミュレーション1	仮にパターン1(社人研推計準拠)において、合計特殊出生率が令和22(2040)年までに人口置換水準程度(2.1程度)まで上昇すると仮定した場合のシミュレーション
シミュレーション2	シミュレーション1に加え、(直ちに)移動(準移動率)がゼロ(均衡)になることを仮定した場合のシミュレーション
パターン2 (独自推計①)	(コホート変化率法)同じ年に生まれた人々の集団について、過去の実績人口の動向から「変化率」算出し、それに基づき将来人口を推計(基準人口は住民基本台帳)
パターン3 (独自推計②)	(コホート要因法)シミュレーション2の推計条件に準拠しつつ、住民基本台帳人口(令和3年8月31日時点)ベースで算出

■合計特殊出生率(推計用の設定) (P44)

第2次広陵町人口ビジョンでは下記合計特殊出生率を使用

2022年	2026年	2030年	2034年	2038年	2042年	2046年	2050年	2054年	2058年	2062年
1.45	1.59	1.59	1.85	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10

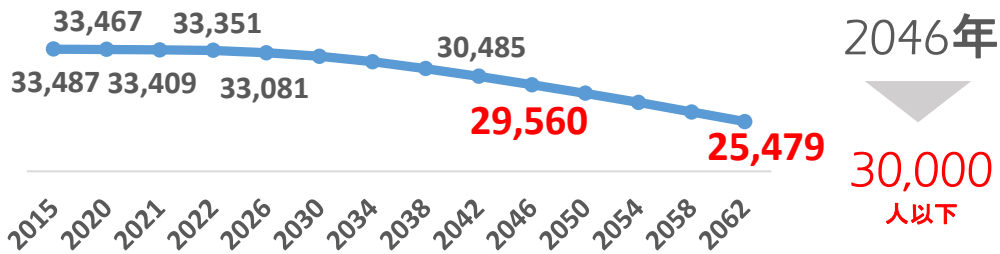
(参考) 第1次広陵町人口ビジョン策定時に使用の合計特殊出生率

2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
1.34	1.50	1.80	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10

■将来人口推計 (P46)

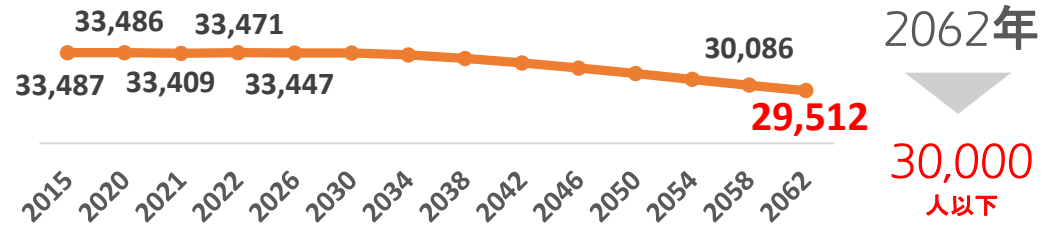
1 パターン1 (社人研推計準拠) * 基本人口はH27国勢調査

第1次広陵町人口ビジョンでは、平成22年度の国勢調査結果をもとに、2060年に22,395人、2030年から2035年にかけて人口は30,000人を割り込むと推計。今回は平成27年度の国勢調査の結果をもとに再算出。



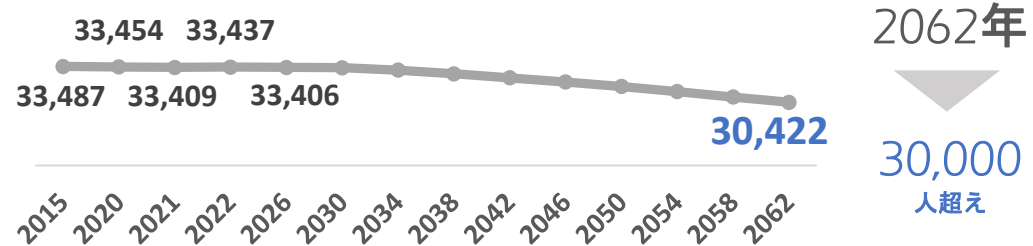
2 シミュレーション1 (社人研推計準拠+2040年までに合計特殊出生率向上)

第1次広陵町人口ビジョンでは、2060年に28,198人と推計。



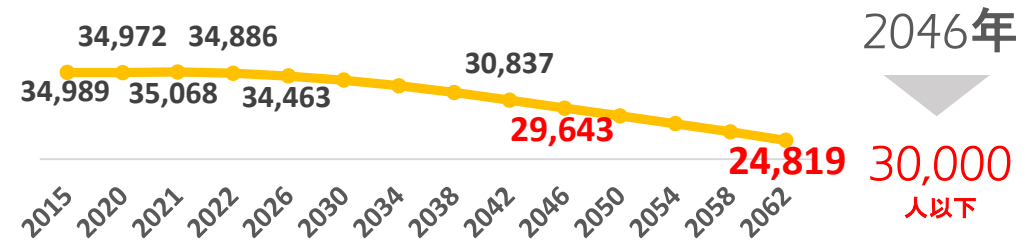
3 シミュレーション2 (社人研推計準拠+2040年までに合計特殊出生率向上+移動がゼロ)

第1次広陵町人口ビジョンでは、2060年に29,294人と推計。



4 パターン2 (独自推計①: コホート変化率法) * 基本人口は住民基本台帳

今回初めて試算。



5 パターン3 (独自推計②: シミュレーション2) * 基本人口は住民基本台帳

第1次広陵町人口ビジョンでは、独自推計の基準人口は平成27年8月31日時点における住民基本台帳人口を基に作成され、2060年に30,860人と推計。

